

## はじめに

工業化、都市化が急激にすすめられてきた昭和30年代から40年代にかけて、三多摩地域は、工業団地、各大手資本による住宅産業への投資などによって引き起こされてきた建設ブームの中で、自然と文化の破壊が急激に進行しているその中で、埋蔵文化財が最も大きな被害を受けざるを得なかった。実際、地方自治体における文化財保護行政の全般的なたちおくれの中で、先住民族の生活と文化を伝える唯一の資料である埋蔵文化財が破壊されていった。自治体自から幾多の遺跡を破壊してきたことも現実であった。

福生市長沢遺跡附近も、ここ数年来、宅地化がすすんでいた。こうした中で、文化財に関心を持つ市民の中から、長沢遺跡の発掘の声がひろがっていった。1970年始め、長沢遺跡の一端に消防署建設が明らかになるにおよんで、長沢遺跡の発掘調査要求は、いちだんと大きくもりあがっていった。これらの声をうけ、福生市文化財調査会(森田潤三 会長)は、長沢遺跡発掘に関する陳情書を提出した。これを受けて、1970年3月、調査費用として30万円の予算がついた。その後、1970年6月に福生市文化財調査会、市内小中学校の先生方の協力によって“長沢遺跡調査に関する研究会”を組織し、数回にわたって研究会をひらいてきた。この数回の研究会の中で、「出来るだけ地域住民の手で発掘していこう」ということが確認され、塩野半十郎氏(秋川市在住)に発掘の指導と調査会の主任をおねがいがした。発掘は、7月26日から12日間にわたり、市内の小、中学校の先生方や、市文化財調査会員、市民、中学生たちの参加によって行なわれた。

この報告書は、こうした発掘の結果うまれたものである。この報告書作成にあたって、塩野半十郎氏、福生市立第一中学校教諭 川鍋幸三郎氏、写真の田村光男(国学院大学学生)、浜野美広(東京学芸大学学生)両君等のおしめない協力で感謝する。

### 発掘調査会の組織

長沢発掘調査会会長	福生市教育委員会	教育長	町田倍二
副会長		庶務課長	内田和雄
事務局長		社会教育係長	野沢久人
事務局員		社会教育係	加藤有孝
調査 主任			塩野半十郎
調査員			川鍋幸三郎
写真		山崎雄大	田村光男 浜野美広
発掘 参加者			
立川愛雄	山崎功一	森田洋子	福島敏郎 高崎伊平 翠川好道 土井良英一
野口 勉	木村 勉	塚田 守	田村元昭 森田秀敏 佐々木義身 岩崎好亮
宇津木高司	小沢貞夫	浜中龍次	木村龍生 加藤 稔 福生第1中学校郷土クラブ
測量	福生市都市計画課	関口 清	荒井公雄 高山康夫 小峰 勝